

氏名	渡 部 寛
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 700 号
学位授与の日付	昭和50年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	硫酸抱合型 bilirubin に関する研究 第 1 編 Heterozygote Gunn rat の胆汁中への硫酸抱合型 bilirubin の排泄能 第 2 編 各種肝疾患々者の胆汁中 bilirubin sulfate 分画の 臨床的意義
論文審査委員	教授 水原舜爾 教授 大藤 真 教授 平木 潔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Glucuron 酸以外の bilirubin 抱合の一つとして硫酸抱合が知られているが、詳細は未だ不明なので bilirubin sulfate の臨床的意義について検討した。硫酸根量は Weber & Schalm の方法にならい測定した。各種肝疾患々者の胆汁中では、正常者に較べ急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変症および Gilbert 症候群で有意の高値を示し、また、glucuron 酸抱合とは有意の負の相関を認め血清 ZnTT・TTT・ γ -globulin とも有意の相関を認めた。この結果、肝疾患時 bilirubin glucuronide 抱合が障害された時、代償的に bilirubin sulfate 抱合が亢進するものと思われた。Gunn rat および Wister 系 rat の胆汁中에서도同様の結果を得、化学的に合成した bilirubin sulfate を負荷するとそのままの型で胆汁中に排泄された。負荷実験では glucuron 酸抱合の低下しているもの程排泄が遅延したが、すでに排泄負荷のある状態と思われた。なお、合成した物質について mol 比として算出した結果 bilirubin disulfate の型であることが認められた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

胆汁中に排泄されるビリルビン抱合体のうちではビリルビン・グルクロナイドが最も多く、其他ビリルビン・サルフェート等が知られている。著者はビリルビン・サルフェートの臨床的意義について研究し、肝疾患時にビリルビン・グルクロナイドの生成が減退すると代償的にビリルビン・サルフェートが増すことをみている。臨床的に有意義の業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。